

季刊 HISYO

affection  
devotion  
innovation  
harmony

2005 summer

vol. 7

あさかホスピタル

ASA KA HOSPITAL

飛



特集

個人情報保護法の取り組み  
について

認知症性疾患治療病棟  
ふじ病棟

翔

# 個人情報保護法と医療

2005年4月から「個人情報保護に関する法律」(以下「個人情報保護法」)が施行となり、個人情報を取り扱う事業所や機関に、その取り扱いに関する法律上の義務が発生しました。個人情報保護法の基本理念で謳われている「人格尊重」は、医療法において最も重要な考え方であり、情報の多寡に拘らず、全ての医療機関が患者の個人情報を扱う事業者として、その保護に取り組むことが求められています。

医療分野における「特定の個人を認識できる情報」について考えていくと、氏名や生年月日、住所、電話番号に始まり、診療録、レセプト、保険証、紹介状、検査結果等々。勿論、病名や投薬内容、家族歴、或いはフィルムなどの画像情報など、これをとっても個人のプライバシーとして極めて重要な個人情報を取り扱っていることがわかります。

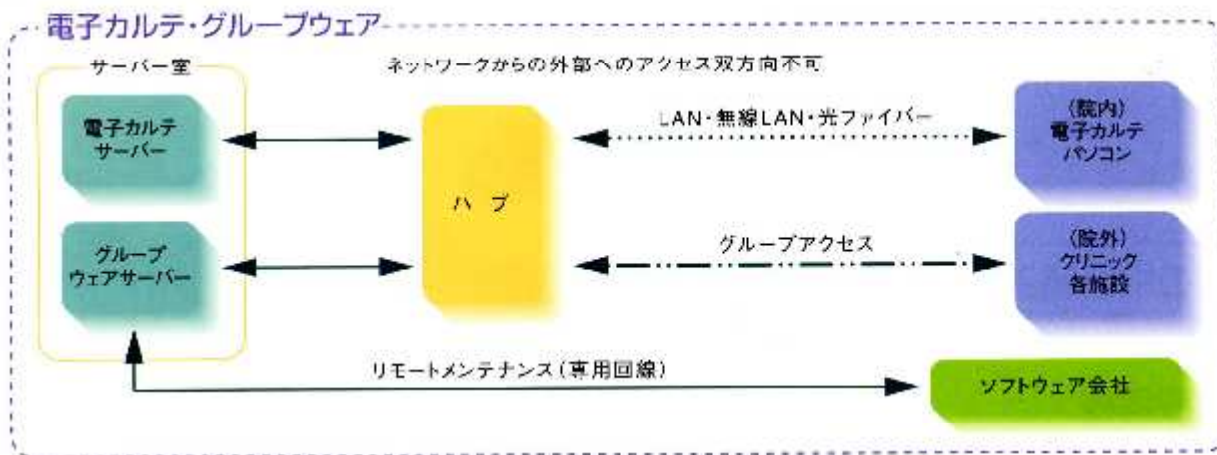
あさかホスピタルにおいては、電子カルテとオーダーングシステム、そして院内情報ネットワーク(LAN)など、IT化を進めてきました。また様々な部署でのインターネットの利用を含め、外部との情報交換も盛んになっています。このIT環境に適した情報のセキュリティシステムの検討として、サーバーの情報の安全、システムのウイルス対策、個人情報の流出防止、更に全てのアクセスの記録としてのログの管理等々、様々な観点から対策を検討してきました。しかし、どんなにネットワークや端末の対策を検討しても、100%安全なシステムを作ることは不可能であることが判ります。

特に、電子カルテにおいては、治療や支援に関わる部門やスタッフが情報を共有し、どんなと新たな情報を追加します。その情報を瞬時に共有し、利用することが、より質の高い、チーム医療の大きな基盤となりま



院長 佐久間 啓

# 報保護法



# の取り組みについて

# あさかホスピタルに

季刊 HISYO

affection  
devotion  
innovation  
harmony

XOS summer

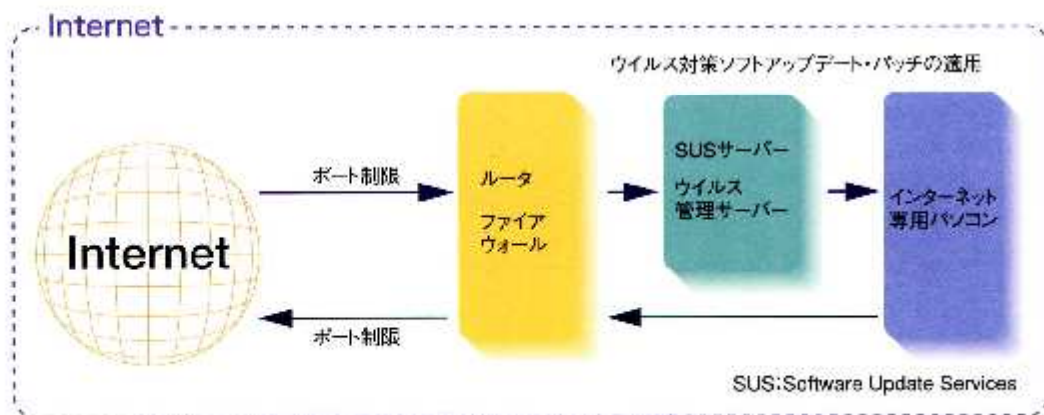
vol. 7

あさかホスピタル

## 目次 contents

- あさかホスピタルにおける個人情報保護法の取り組みについて……………]
- 認知症疾患治療病棟ふじ病棟……………3
- NPO法人アイ・キャンでの取り組み……………7
- FEATURE STORY ON ASAKA……………9
- シリーズ権山の祭「こおりやま文学の森」……………10

院長 佐久間 啓



# 個人情報

す。できる限り診療情報をスタッフ間で共有しようとするのですから、情報に鍵を掛けることはできないのです。共有をすればする程、情報流出の危険が増すのです。

結局、個人情報保護の具体的な対策を考えていくと、職員一人ひとりの意識の問題に行き着きます。職員の倫理教育を徹底し、信頼のできる診療環境を形成することが第一です。医療福祉の現場では個人情報に頻繁に接していますが、本来、その個人情報に侵されざるべき貴重なものであることを、改めて職員一人ひとりが認識する必要があります。

先日、米国のサンフランシスコ総合病院の救急医療を専門としているエバン・カーナー医師が当院で講演された際「救急で入院した患者さんの病状を、それまで通院していたクリニックに問い合わせたところ守秘義務を理由に情報提供を断られた」と話していました。本人が承諾できる状態に無いため、治療歴の情報取得は断念せざるを得なかったが、こういうことは度々あると。日本の医療現場での個人情報やプライバシーについての認識が今まで不十分であったことは否めません。しかし、個人情報の保護を重要視するあまり、本人の緊急的な診療においても、このような不都合な状況に陥ることは避けたいものです。改めて医療の現場で個人情報の扱いの判断がどうなされるべきか、様々な状況に応じて何が優先されるべきなのか、今後も検討を重ねる必要があると考えます。



# を 提供する ふじ病棟

あさか小スπιタルでは、認知症高齢者に対する医療は認知症性疾患治療病棟である「ふじ病棟」が担っています。すなわち、寝たきりなどの状態ではなく、かつ、精神症状や行動障害が著しいため、自宅、他の医療機関や介護施設などで療養が困難な認知症高齢者に対して、診断評価、治療、手厚い看護、介護を一定期間（通常は3〜6ヶ月間）集中的に提供している病棟です。このため、治療、看護、介護などを提供する専門医、専門職（看護師・介護福祉士・作業療法士・臨床心理士等）がいて、早期に診断評価することによって、必要な薬物療法、作業療法、精神療法の提供が可能となります。

認知症高齢者の情緒の安定化、残存能力の活発化を図りながら、認知症による不適応症状を改善し、安定した日常生活を回復させるため、薬物療法、精神療法（リアリティオリエンテーション、回想法）、音楽療法、作業療法、日常生活訓練など様々な治療法を組み合わせて対応しています。

更に、診断、治療、看護、介護の質の向上に非常に有用であるといえるクリニカルパスを導入しています。また、精神科の医師のみならず、内科、脳外科をはじめとする他科の医師の協力体制も整っているため、脳梗塞症、糖尿病、心筋梗塞、気管支喘息、胃潰瘍などの身体合併症の治療と精神的治療が同一施設で同時に行えるという利点も備わっています。

副院長 高橋 志雄

## 病棟の概要



副院長  
高橋 志雄



- ※1 長谷川式スケール  
 正式名称:改訂長谷川式認知症評価スケール=認知症の評価基準を測定するもの。  
 合計(満点30点)中、21点以上を非認知症、20点以下は認知症。
- ※2 受け持ち制看護方式  
 それぞれの患者様の入院から退院までの継続した看護の提供を目的とし、受け持ち看護師が入院から退院までの患者様のケアに責任を持ち、患者様の気持ちや希望を充分にお聞きした上で、看護師自らがケア決定し実施していく。
- ※3 チームナーシング  
 看護師がチームで患者様のケアをする看護方式で、カンファレンスを持つことによって情報共有でき、適切なケアが提供できる利点がある。

# 認知症の早期診断と専門的治療 あたたかいチーム医療で

ふじ病棟はベッド定床53床、個室（1人部屋）が2床、家庭復帰訓練室1床の男女混合の病棟です。

入院患者様の最高齢は95歳、平均年齢は78歳。長谷川式スケールの平均値は、1ヶ月の平均退院は2〜3名で、退院先は自宅、介護施設、グループホーム等様々となっています。

看護・介護は、患者様の人權の尊重を土台に「患者様の安心と安全」に心掛け、仕事は「笑顔であいさつ」を合言葉にしております。

職員は看護師・准看護師10名、介護福祉士10名、作業療法士1名の21名です。受け持ち制看護方式とチームナーシングの混合制をとり、24時間、患者様とご家族に満足いただけるような看護・介護の提供を目指し、努力を続けております。

日課プログラムは楽しく過ごしていただけるように検討を重ねました。タイムスケジュールの中で、毎日の午後の歩行練習



## 「笑顔」が合言葉

は転倒の予防にもなる大切な時間となっています。

例えば、車椅子を使用している患者様、歩行器を用いている方、ですりにつかまったり、職員に手を引かれたりと、入院患者様のほぼ全員が、職員とともに、音楽のリズムに合わせて歩行する姿が見受けられます。このことは、患者様本人が自分で歩いたという自信にもつながるようです。

	月	火	水	木	金	土	日
AM	モーニングケア 整容・洗面 検温・服薬 水分補給 生活機能訓練 入浴	モーニングケア 整容・洗面 検温・服薬 水分補給 生活機能訓練 入浴	モーニングケア 整容・洗面 検温・服薬 水分補給 生活機能訓練 入浴	モーニングケア 整容・洗面 検温・服薬 水分補給 生活機能訓練 入浴	モーニングケア 整容・洗面 検温・服薬 水分補給 生活機能訓練 入浴	モーニングケア 整容・洗面 検温・服薬 水分補給 生活機能訓練 入浴	モーニングケア 整容・洗面 検温・服薬 水分補給 生活機能訓練 入浴
PM	薬つけ 生活機能訓練 お水	薬つけ 生活機能訓練 お水	薬つけ 生活機能訓練 お水	薬つけ 生活機能訓練 お水	薬つけ 生活機能訓練 お水	薬つけ 生活機能訓練 お水	薬つけ 生活機能訓練 お水

病棟師長  
松岡 律子

## Aさんは退院も近い

Aさん、82歳は入院当初、著しい精神症状（攻撃的口調・暴力行為・不眠・拒食など）が見受けられ、硬い表情をしており、毎日車椅子での全面介助の生活でした。入院前はご家族も大変な状況であったことは想像が由来しました。

私たちはいつものように、根気強い働きかけを実践し、言葉掛けも意識して行っていました。食事も介助を通して食べていただけだったので、色々なお話をしながら介護を続けました。そんななかで、自分でスプーンを持ち、少しずつ食事ができるような変化が見られました。日々表情も穏やかになり、症状も軽減されてきました。最近では少しの手助けで歩行することができるようになり、退院の方向にもなっています。

スタッフは、日頃の看護・介護から、患者様へ些細なことでも根気強く関わる事の大切さを知り、患者様の言葉にならない訴えに耳を傾けるという看護の基本となるアクティブリスニング（積極的傾聴）を続け、ご家族への信頼関係を築けるように取り組んでいます。

## ご家族の協力に感謝

入院後、定期的に各職種が集まり患者様やご家族の希望・要望を伺い、患者様の今後について方向性を検討しています。担当ナースからは、患者様の日常生活の様子を伝え、ご家族への理解をいただき、様々な課題をお互いに話し合い交流を図っています。

また、定期的に家族教室を開き、ご家族同士が同種悩みや不安・問題を話し合う場を提供し、医師からの病気についての学習会や、ソーシャルワーカーからの情報の提供なども行っています。

そして、病棟新聞の「ふじだより」を年に3回発行し、病院や病棟の行事・担当スタッフからの連絡事項などを掲載しております。



## さらなるチーム医療を目指して

院内の他の病棟では、すでに実施しているランチバイキングを、ふじ病棟でも始めました。準備に当たり、誤嚥・食べ過ぎ・栄養のバランスなどを心配しましたが、栄養課との十分な話し合いを持ち、スタッフ間では患者様の食事摂取の自立状況によってグループ編成を考え、それに合ったテーブルの配置も考慮しました。結果は予想以上で、患者様が大変喜んで頂き、笑顔の感謝をいただきました。

また、老年期エリアとしての院内での活動は、各職種が連携を図り情報交換を行っていきます。月に1回、診療検討会を開き、事例検討をはじめ、学習会、研修会、講演会などでお互いの意識向上、啓蒙活動の場としていきます。

これからもスタッフ間で、認知症性疾患治療病棟として各専門職と充分協力をし、地域との連携を図り、サービス向上を進めていきたいと思っております。

病棟師長 松岡 律子



3



1



4



2

1. ふじ病棟スタッフ
2. ランチバイキング
3. 病棟行事 (ボウリング大会)
4. 老年期診療検討会



# OT活動週間予定

RO/体操 機能別活動	RO/体操 手芸	RO/体操 音楽療法	RO/体操 機能別活動	RO/体操 化粧活動
PM AM	PM AM	PM AM	PM AM	PM AM
カラオケ 歩行運動	集団レク 歩行運動	喫茶/回想法 歩行運動	集団レク 歩行運動	集団レク 歩行運動
月	火	水	木	金

## 治療病棟における作業療法

治療病棟における作業療法（OT）は1日4時間、週5日の機能訓練が必要とされ、認知症の症状、および身体機能、ADL（日常生活動作）の回復を促し、退院できる状態に戻すことを目的としています。

その治療のプロセスは個人の認知症の障害の程度、もつて生まれた性格、歩んできた人生によつて提供される治療は様々です。

ふじ病棟では、スタッフの協力を得ながら、個人々に合わせて、認知症の改善を促す治療プログラムを提供しています。大まかにその治療は、以下の点に重点をおいています。

- 1 昔の記憶をたどる
- 2 人と人との交流を促す
- 3 身体機能の衰えを防ぐ

昔の記憶をたどることは認知症の方にとつても有意義なことです。昔の流行歌を歌うとき、昔話に花を咲かせるとき、本当に生き生きといふ表

情をされます。

これは同じ年代の患者様同士が語り合うことによつて喜びや苦勞をともに共有しあう行為が自尊心の回復や安心感につながるのではないかと考えます。

また、認知症の方は他の人とのコミュニケーションが難しくなるため、孤立しがちになり外部からの刺激が少なくなり、外部からの刺激をより多く、より受け取りやすくするためにスタッフが中に入り交流を促します。

高齢に伴つて、精神面だけでなく身体面の衰えも著しくなつてきます。特に足腰の機能低下は動くことを億劫にさせ、活動性を下げてしまいます。

活動性の低下は外部からの刺激に対し鈍感になり興味関心を持ってなくなり、夜間覚醒など精神面、生活リズムへの影響が大きいため、身体機能の維持はプログラムの中で重要なポイントとなります。

## 作業療法の具体的なプログラム

作業療法の活動はRO（リハビリテーション）から始まり、日付の確認や季節の話題、今日の予定などを確認しながら現実へ意識を向けるやりとりをします。

主に午前中は小グループや個別を意識したプログラムで、音楽療法士による音楽療法も取り入れています。午後は集団でのレクリエーションが中心です。また、下肢筋力の維持、向上や転倒防止を目的とした歩行運動も毎日行っています。

毎日の活動に加え、年間行事にも力を入れて、花見、ボウリング大会、七夕、ミニ運動会、クリスマス会、長寿のお祝い、誕生会など地域のボランティアの協力を得ながら、毎月季節に合わせた行事を中心に行っています。普段は見られない患者様の表情を見ることが出来る機会でもあります。

ふじ病棟の治療の中で重要な治療のひとつに回想法があります。回想法とは上記にも



示したように自尊心を回復したり不安を軽減することを目的に毎回テーマを絞って昔の記憶をたどり語り合うことです。精神保健福祉士が中心となつて週に二回、60分を日安に行われており、入院から半年以内の患者様が対象となり集中的に治療が行われています。

これらのプログラムは個人々々定期的な評価を行い、集団で活動する中でもその人にあつた関わりに配慮して行っています。作業療法では様々な活動を通して自分らしさを少しでも取り戻すことが出来るような援助をこれからも試行錯誤しながら続けていきたいと考えています。

作業療法士 菊地 恵津子



作業療法士  
菊地 恵津子



# NPO法人 アイ・キャンでの取り組み

表1

当事者向け	ご家族向け	専門家向け	地域向け
Let's Work (OTP)	OTPワークショップ	1 講演会 2 OTPワークショップ	講演会
①働くこと社会参加について ②病気の特徴 ③効果的な薬の使い方について ④再発・再入院を防ぐには～早期警告サイン～ ⑤家庭や職場でのよりよいコミュニケーションの実現に向けて ～アクティブリスニング～ ⑥家庭や職場での問題やストレスを解決するには～問題解決技法～ ⑦自分の気持ちを上手に伝えよう①②	①根拠に基づいた治療・支援 ②家庭内でのよりよいコミュニケーションの実現に向けて ～アクティブリスニング～ ③再入院を防ぐ方法～早期警告サイン～ ④家庭内での問題やストレスを解決する方法～問題解決技法～	1 講演会「21世紀における根拠に基づいた治療・支援」～退院支援・再発予防・社会参加への取り組み～  2 OTPワークショップ ①OTPの理論的根拠 ②構造的煩悩（アクティブリスニング） ③幻覚への対処 ④早期警告サイン ⑤日常問題記録表 ⑥問題解決技法	「私たちの生活とこころの健康」～家庭や職場、学校におけるメンタルヘルス（こころの健康）～
参加者8名	参加者5名	1 参加者57名 2 参加者18名	参加者70名
無料	有料	1 無料 2 有料	有料

昨年度、NPO法人アイ・キャンでは当事者・家族・専門家・地域という4つの対象に向けた取り組みを地域生活支援センターが中心となり実施しました。具体的には、表1のとおりです。いずれも講師及びファシリテーターを私共、NPO法人

アイ・キャンの相談医である二浦勇太医師に務めていただきました。そうした取り組みを通して、それぞれの対象ごと、そしてそれらが統合され目指すべき姿やそれを実現するために取り組むべき課題が見えてきました。

## キーワードは エンパワメントと ノーマライゼーション

障害の有無に関わらず、社会構成員の誰もが自己実現したいという基本的なニーズがあります。それが実現できる社会がいわゆるノーマライゼーション社会といえると思いますが、現在、精神疾患をお持ちの当事者の雇用の機会や社会参加は十分とは言えず、働く上で病気のことの既示・非開示の選択が、大事な意味合いを生じると言われること自体、精神疾患に対するステイグマが存在していることは否定できません。

もちろん当事者の生活のしづらさによる作業遂行上または対人関係上のスキルの問題も存在しますが、これまで支援者として当事者をいわゆる社会という「当たり前」に近づけようというベクトルでの関わりを目をむけることが多く、社会に対しては、どうぞ受け入れてほしいといった程度の関わりに留まっていました。

しかし本来目指すべき社会構成員の誰もが自己実現できる社会という前提で当事者が社会参加していくためには、社会側がどれだけ当事者の特徴



性に配慮できるかという社会側に向かうベクトルでの関わりも必要だということに気づきました。

それを受け、それぞれの対象に対し、根拠に基づいた方法を用いてエンパワメントの取り組みをしていくことで、それぞれがエンパワメントされ、その先にノーマライゼーション社会が実現するという仮説をたて、引き続き実施、検証をしていきたいです。

地域生活支援センター  
アイ・キャン施設長

安西 里実







## 地域に向けた活動について

NPO法人アイ・キャンでは「さがわヴィレッジ」を始めとする住居管理と地域生活支援センター「アイ・キャン」の2つの事業に取り組んでいます。

センターは「ヴィレッジ」の1階に設置されているため、来訪者の多くがまず目にするセンターやそのスタッフを「ヴィレッジ」の管理部門や管理者と認識する傾向がありますが、センターはあくまでも地域全体に開かれていることを前提とした公的な補助金も投入された施設です。

「ヴィレッジ」の管理専従者はセンターの職員を兼ねない2名のみです。しかしながら、「さがわホスピタル(病院)」から「さがわヴィレッジ(住居)」へ



の転換過程での脱施設化プロジェクトがNPO法人の起源の一つであることもあり、また、実際にヴィレッジをはじめとする共同住居利用者への直接支援が手厚く必要でもあるため、センターのスタッフの業務の多くが、こうした当事者に供されており、「あさかホスピタル」の一部の職員や地域の専門家の一部は、これがセンターの主たる機能であるとの認識をもたれているようにも見受けられます。

センターは本来、広く地域の当事者への直接支援や社会への働きかけ(結果としての当事者の社会参加を促進するといふ間接支援)も求められているところであり、安西施設長による別掲小文に記された活動を

補助金活動の主旨もふまえながら昨年実行してきました。このような活動には共同住居利用者の一部も参加しましたし、間接支援プログラムの推進による成果はやはり共同住居利用者への果実にもなると確信しています。

共同住居利用者も「地域生活者」であり、対象の如何によらず現状では「補い」中心の無償のかかわりが多くを占めていますが、このままでは高齢化による問題の深刻化も含めてセンター運営上の人的・金銭的状況が悪化することは明白であり、また当事者の真の自己実現を目指す意味からも、直接支援の枠組みにおいては応答負担の丁寧な議論を行いながら、根拠を参照しながらの「インバリエメント」プログラムの確立が望まれます。

NPO法人アイ・キャン相談医  
あさかホスピタル医師  
三浦 勇太





# C O L U M N

「なぜ山に登るのか」を問われても自分でもよくわからない。ただ時間があればよく山歩きをするようになっていた。四季折々の山の姿に知らず知らず魅せられてしまっているのかもしれない。

早春から初夏までの山は高山植物がここぞとばかりに咲き誇っている。雲上の湿原に広がるチングルマ・ワタスゲなどの群落は池と相まって見事なものである。真夏の稜線に広がる草原は吹く風になびき、まるで上質のピロートのように見える。また、夜空を埋め尽くす星の数は町で見る星の数の想像をはるかに超え、まさに手が届くようで夜空を圧倒している。朝もまた素晴らしい。東の空の刻々と変わる彩りに目が奪われてしまう。この瞬間をと思いカメラのシャッターを押すが、目に焼き付けたネガとは程遠い仕上がりで、それはいつも叶わぬ思いとなってしまう。

こんな自然の真ただ中で時を過ごすこと、やっぱり山が好き。以外の理由は見つからない。汗して山頂に立ち眺望を楽しめば、ふと身体が軽くなり、何とも言えぬ爽快感に包まれる。何度来わつても飽きることはない。

さて、今年もまた雲上の嶺々から招待状が届きだした。今年はどうなプレゼントが待っているのか、失礼のないよう早々に足を運びたいものである。

地域連携室 吉田 仁一



イワカガミ



ワタスゲ



チングルマ

## FEATURE STORY ON ASAKA

No.7

### HEALTHY COOKING

#### スモークサーモン&レモンの押し寿司



#### 材料

○米	1.5合	○わさび	適宜
○スモークサーモン	8枚	○万能ネギ	3g
○青しそ	8枚	—○酢	大さじ2
○レモン	1個	合せ酢	大さじ3
○イクラ	30g	○塩	小さじ1
○イタリアンパセリ	1枝	—○レモン汁	1個分

#### 作り方

- ※ 押し寿司型を水につけておく。
1. 米を洗い、すし飯用のごはんを炊く。合せ酢の材料をよく混ぜておく。
  2. 炊きたてのごはんをすし桶やバットに広げ、合せ酢をかけ、ごはんを切るように混ぜる。
  3. 押し寿司型の水気を軽くすり、始めにスライスしたレモンを3枚並べ、続いてスモークサーモンを5枚並べる。盛り付けた時の彩りを考え、青しそも4枚並べる。
  4. その上に寿司型の半量まですし飯を入れ、たいらにならし、青しそ4枚とスモークサーモン3枚を並べ、再びすし飯を入れ型押しする。
  5. 寿司型のまま20分ほど置き、形が整ったら、適当な厚さに切り分け、皿に盛り付ける。上にイクラをのせ、イタリアンパセリ、万能ネギをさえる。

清々しい初夏です。さくらめく明るい光を待ち望んでいた方も多い事でしょう。今回は、レモンの香りもさわやかな押し寿司をご紹介します。鮭には、ビタミンB1が豊富に含まれていて、疲労力を高めるとともに、カルシウムの吸収を助けます。ビタミンDが不足すると骨軟化症や骨そしょう症になりやすくなります。レモンもたっぷり入ってビタミンCもアップ♡さわやかなお肌を作りやす。押し寿司型がない場合は、お弁当箱などを利用して気軽にお作り下さい。夏の定番メニューにぴったりの一品です。

1人分  
 カロリー…345kcal  
 たんぱく質…7.5g  
 塩分…3.0g



# 郡山の顔 こおりやま文学の森

## 郡山市文学資料館・久米正雄記念館

郡山市文学資料館



久米正雄記念館

平成12年2月に開館した「こおりやま文学の森」には、「郡山市文学資料館」と、鎌倉の久米正雄邸を移築復元し、内部公開されている「久米正雄記念館」があります。また、敷設路もある広い敷地では、静かな空間で季節の花々や緑と触れ合うことができ、ゆつくりと昔の文学者達の暮らしを知ることもできます。

「郡山市文学資料館」には、安積開拓により明治期から急速な発展を背景に郡山ゆかりの作家、久米正雄をはじめ、宮本百合子等の原稿・遺品・書籍などの文学資料を中心に展示公開され、文学者達の足跡をたどることができます。

「久米正雄記念館」は、建物述べ244・17㎡、約74坪あり、当時ではめずらしい和洋折衷を取り入れた風格ある建物です。部屋の中には、久米正雄が使用していたスキー板・野球のユニフォームなど、また写真が多数展示されており、当時の生活に触れることができます。

ぜひ、文学への理解と関心を深める場として、また、郡山ゆかりの作家に触れる場として、訪れてみてはいかがでしょうか。



久米正雄銅像

久米正雄1891〜1952

長野県で生まれ、その後、同成小、金透小、安積中学校（現安積高校）に学んだ。中学時代に新傾向俳句を学び、三汀と号した。開成山の牧場をモデルにした「牛乳屋の兄弟」で劇作家として出発後、郡山を舞台にした戯曲「地蔵教白菜」や「阿武隈心中」を発表。また、父の死を描いた小説「父の死」や学生生活を描いた小説集「学生時代」は傑作。夏目漱石の門下生となり、漱石没後、令嬢筆子に恋し、夏目家出入り禁止となる。この体験を「萱草」「破船」に描き、大正期を代表する作家になった。





# Fundamental Philosophy

**愛情**  
Affection

優しい心で接することで、患者に寄り添い、信頼関係を築く。心を通わせ、共に歩む。

**奉仕**  
Devotion

医師、社会、職場の生活、全てに専念の心を注ぎ、患者の健康と幸福のために、自己犠牲の精神で奉仕する。

**和**  
Harmony

職員のチームワーク、患者の健康づくりを推進し、協力を促して人間性を高める。健康を築く。

**進歩**  
Innovation

常に最先端の医療技術、サービスを提供し、患者の健康と幸福のために、自己犠牲の精神で奉仕する。

あさかホスピタルは基本理念のもと、心と脳の専門機関としてすべての人の心と人格を尊重し、質の高い心のごもった医療・保健・福祉を提供します。



こちらは、A棟の議院内メインホールの写真です。もたまたかみのある照明と家庭的な雰囲気で患者様にご利用いただいております。A棟(表部)は、患者様の立場に立ったデザインが評価され、外務省建築賞2000を受賞いたしました。

### ●編集後記

今回の季刊誌「飛翔」は、発刊にあたり編集スタッフを一新し、制作いたしました。今年の4月に施行になりました「個人情報保護法」と、県内でも数少ない「認知症疾患治療病棟」という施設基準のふじ病棟を特集記事とさせていただきます。加えて、NPO法人アイ・キャンの地域に向けた活動についてもご紹介させていただきました。今回発刊いたしました季刊誌「飛翔」を通じて、あさかホスピタルの取り組みについてご理解頂ければ幸いです。今後も新たな視点で、皆様から親しまれる季刊誌を目指して参ります。

季刊誌編集スタッフ

### ●ご意見・お問い合わせ

あさかホスピタル 企画広報室 E-mail: kikaku@asaka.or.jp

あさかホスピタルでは、「次世代育成支援対策推進法」に基づき、仕事と子育ての両立を図る必要経費を雇用関係の設備等を充実させております。



### address/access

- バス 福島交通/郡山→須賀川線(約20分) 西条川(土俵)停留所から徒歩約5分(徒歩5分)
- JR 東北本線・水郡線/安積永盛駅下車(徒歩約5分)



## あさかホスピタル

〒963-0198 郡山市安積町笹川字経垣45  
 TEL:024-945-1701(代) FAX:024-945-1735  
 ■ホームページ <http://www.asaka.or.jp/>  
 ■Mobile Web Site: <http://www.asaka.or.jp/i/top.htm>  
 ■E-mail: [info@asaka.or.jp](mailto:info@asaka.or.jp)  
 ■フリーダイヤル ☎0120-46-1701

### 医療法人 安積保壽園グループ

- 介護老人保健施設 啓寿園  
郡山市安積町笹川字経垣31  
TEL024-946-6145(代) FAX024-937-3156
- さくまメンタルクリニック  
郡山市中町7番16号 安積野ビル3階  
TEL024-932-5007 FAX024-932-5913
- あさかストレスセンター CA?あさかオフィス  
さくまメンタルクリニック内  
TEL:024-932-0080
- あさかホームケアーズ  
ウェルネス介護支援事務所 ウェルネス介護支援センター  
ウェルネス介護支援ステーション ウェルヘルパーステーション  
ウェルケア(車庫直結)  
郡山市安積町笹川字日光池西6-1  
TEL024-946-0581・0582・0583・0584 FAX024-946-0581
- 福祉ホーム 希望'98  
郡山市安積町笹川字西角地54-2  
TEL024-945-7625

### 関連施設

- 介護老人福祉施設 安積千寿園  
郡山市安積町笹川字岡谷田3番地6  
TEL024-946-2816 FAX024-946-8170
- 介護老人福祉施設 しらさわ有寿園  
安達郡白沢村和田字戸ノ内155番地3  
TEL0243-84-2121 FAX0243-84-2788
- 知的障害児施設 安積愛育園  
郡山市安積町笹川字経垣26  
TEL024-945-0369 FAX024-945-0379
- 知的障害者更生施設 あさかあすなる荘  
郡山市安積町人森70-1  
TEL024-947-7575 FAX024-947-7576
- 地域生活サポートセンター  
知的障害者サービスセンター パツッ  
郡山市安積町笹川字西角地54-3  
TEL024-937-0201 FAX024-947-5115
- 知的障害者通所更生施設(分室) ビーボ  
安達郡白沢村和田字戸ノ内321  
TEL0243-84-2151 FAX0243-84-2152

### NPO法人

- 精神障害者地域生活支援センター アイ・キャン
- 共同生活施設 ささがわヴィレッジ  
郡山市安積町笹川字西角地59-7  
TEL024-945-1100 FAX024-945-1125